

認知症を抱える方への 支援方法を学ぶ研修会に参加



- 認知症を抱える方への支援方法及び研修会
平成30年7月11日(水) 10:00~12:00
※研修会場 福祉センター304・305
1. 開会挨拶 (10:00~10:10) 西宮認知症サポーター協議会 事務局 藤原 浩典
 2. 認知症を抱える方への支援 (10:10~10:50) サツキ・トワ・マユミ 氏、川口 由美子 氏
 3. 質疑応答 (10:55~11:00) ~ 休憩 ~
 4. グループワーク (11:10~11:40) 『認知症を抱える方への支援方法を学ぶ研修会』(CA)の活用について 川口 由美子 氏、サツキ・トワ・マユミ 氏
 5. プレゼンテーション・報告 (11:45~12:00) 研修 2 コミケ地区で実施する取り組みについて



研修 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
研修 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
研修 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
研修 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
研修 2 コミケ地区で実施する取り組みについて

◎ 研修で確認している「暮らし」の
確認 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
確認 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
確認 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
確認 2 コミケ地区で実施する取り組みについて
確認 2 コミケ地区で実施する取り組みについて

講師

ライフパートナーかくだ山 岩崎 典子 氏



【講師紹介】

新潟市西蒲区でケアマネジャーとして活動する福祉の専門職。また、6月から西蒲区松野尾で始まった「marugo-to」の運営団体の代表も務め、誰もが参加できる居場所の実現に向けて、日々奮闘している地域共生社会実現の推進者。

研修会プログラム

○開会挨拶

西蒲区社会福祉協議会 事務局長補佐 三角

○講義

「認知症を抱える方への支援」

ライフパートナーかくだ山 代表 岩崎典子 氏

○質疑応答

○グループワーク

「認知症を抱えた方が安心して暮らし続けられる地域ってどんな地域？」

○オレンジリング交付・閉会

研修内容(支援のポイント)

○10人いたら10人症状が違う。また、認知症の症状は目に見えづらいので、理解されづらい。だからこそ、正しい知識が必要。

◀ 行動・心理症状を理解するイメージ図 ▶

○中核症状が起こることで、行動・心理症状が引き起こされる。
(例)

・記憶障害で、大事な者をしまった場所を忘れてしまう。
→そのことが、「身近な人が盗った」という心理につながり、家族等に強くあたるという結果を生み出している。

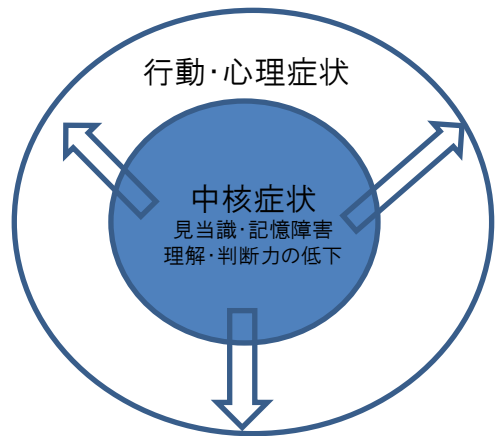
○家族介護者の心理を理解する必要がある。ただし、家族の心理状況を見極めたくて、声をかけることも大事。

○対応の心構えは3つの「ない」。

・驚かせない、・急がせない、・自尊心を傷つけない

○接する際の7つのポイント。

- ・まずは見守る、・余裕をもって対応する、・声をかけるときは一人で
- ・後ろから声をかけない、・相手の目線に合わせて優しい口調で
- ・穏やかにはっきりとした話し方で
- ・相手の言葉に耳を傾けてゆっくと聞く



講師資料を参照し作成

グループワーク(発表内容)

【サポートネットワークのメンバーは】

○メンバーの可能性のある方(団体)はたくさん挙がったが、どのように情報共有をしていくかは課題

【自分たちでできることは】

- 見守るという参加の仕方でもOK
- 地域の茶の間へ誘う
- 西蒲区見守りキーホルダーの活用
- 見守り+声かけを行う
- 認知症ということを発信できる地域づくり
→地域で声をあげやすいように
- 情報共有の流れの確立



編集後記

前回の研修会と共通して「10人いたら10人違う」ということを講師はキーワードとして挙げていた。

利用する方の違いに目が行きがちだが、marugo-to運営メンバー一人ひとりも「違う」ということに思いあたり「ハッ」とするキーワードであった。